片瀬山防災会

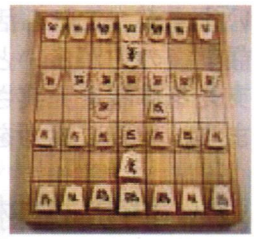
片瀬山防災だより

第6号　2008年5月31日

今回のテーマは「近隣ネット」です。
大規模災害発生時の近隣住民同士の助け合いの組織です。
皆様のご理解とご協力で災害に強い片瀬山を作りましょう！

近隣ネット
片瀬山防災会

“防災”一年生：



元来、無頓着の性格、防災に関しては無知識無関心、全くの落第生。
小生、少々将棋を嗜み、“ヘボ”を負かして悦にいっている所があります。
将棋の思向性には常に全体を見渡す大局観と小局面バトルとの相関関係が深く関ってきます。100%完璧な手はあり得ないが、常に最善手を心がける事は出来ます。
過去の経過からみて、この最善手を一手々々意識しているかどうかで実力に差が出るように思われます。防災会と言っても大災害の前には全く無力のものでしょう。大水害が起きたとしましょう。片瀬山の住民で良かったと高見の見物とはいきません。
何千何万という難民の群れが山をめざす。個々の敷地や住居を提供しようなどという考えはあっと言う間に吹っ飛んでしまう。大震災は我々のディフェンスの思考をはるかに超えたものです。
そこそこの災害に対する敏速な防災対応という事でしょう。将棋の局面での最善手の模索と防災意識が相通じるものは・・近隣ネットの構築強化ではないでしょうか。
年配者は屋根に上ったり、木材を担いだり出来ませんが、過去の経験豊かな知識を持って居られる。若者の中にも技術能力に優れた方々も居られるでしょう。その一つ一つの住民情報の結集がネット強化につながり、各々優秀な駒となって、ご活躍いただけるものと思います。（２丁目　福田　至）

4丁目の近隣ネット発信：（近隣ネット構築に向けて）

近隣ネット
片瀬山防災会

去る1月２７日に4丁目の近隣ネットが結成されました。
99名が会員になり自治会と連携して活動する防災ボランティアです。
活動は①「災害発生後」と②「平時」に分かれます。
①では自治会員の安否確認・状況把握、被災者の救出・非難支援、火災の防止・初期消火、避難施設運営の支援など②では会員間の交流、防災機材の検討、防災訓練参加などです。
近隣ネットは入会も退会も自由です。年度末には意志確認と新規募集が行われます。
片瀬・江の島地区には片瀬山5丁目自治会を除く21の自治会・町内会があり、一部には近隣ネットを組織する動きが見られます。片瀬山の地域は手本にされていると言えるようです。

（近隣ネット構築プロジェクト　金子照男）

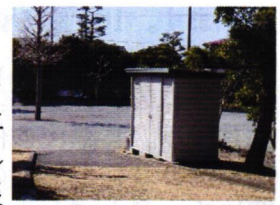
片瀬山の防災について：

近年、阪神淡路、新潟中越地震等が続き、防災への関心が高まってきました。
関東大地震後、既に80余年経ち、次の大地震が何時起きてもおかしくありません。当時は大震災に対する物心両面の備えも薄く、その事が被害を大きくしたようです。東京墨田区の東京都慰霊堂付属の復興記念館にはその時の展示物があり、これを見ると大災害の凄さが分かります。
私共はその犠牲者が残した貴重な教訓を無にすべきではないでしょう。片瀬山の場合、幸い、当時よりも道路、建物の面で好条件にあるようですが、地震発生時には火の始末は勿論、戸の開口も肝要と思います。（家屋に閉じ込められる場合が案外多いそうです）（5丁目　川倉健一）

近隣ネットへの参加を：

片瀬山防災会が誕生して３年になりますが、その間住民の皆様のご理解とご協力によりまして私たちの活動の成果が形になってまいりました。その一つが近隣ネットの構築であります。昨年度は本件を活動の中心に据えて集中してやってまいりました。
只今迄の進捗状況は各丁目によって若干ばらつきがありますが全体的にはかなり進んでおり、今年度中には全丁目が完成する予定です。早速ご賛同頂きご参加くださいました方々には心より敬意を表したいと思います。近隣ネットは大規模災害発生時の近隣住民同士の助け合いの組織です。阪神淡路大震災の際、倒壊建物等に閉じ込められた人の救出の約７５％強が近隣住民によるものといわれており、この数字は、我々の目指す近隣ネットの重要性を裏付けるものであります。
近隣ネットはこのほか安否確認、避難支援、更には火災発生時の初期消火等その時の状況に応じ色々行いますが、これら活動の殆どは体力と敏捷性が要求されます。これまでにご参加頂いた方の年齢は７０歳前後の方が多いと聞いております。また要介助世帯も年々増えていきます。
支える体制を充実させていかなければなりません。現役世代の方々にももっと参加して頂きたいと思います。是非ご協力をお願いします。（防災会副会長・吉田俊昭）

防災機材の整備（防災倉庫の現状）：



南公園には五丁目の専用防災倉庫がありますが、その中身はというと毛布１２枚、青色シート６枚、連絡機器としてスピーカメガホンとトランシーバ、折りたたみリヤカー、担架２セット、消火機材としてバケツ２１個、炊き出し器材として大型鍋、ブロック３個、ポリタンク２個。これらの器材は、おそらく自主防災会発足当時に市から助成された50万円の予算で揃えられたもののようで、おそらく他の自治会も同様な状況でしょう。防災会では発足以来近隣ネットの構築などソフト面の体制作りに注力してきましたが、今年度の活動項目に、「防災器材の充実」を加えました。何を揃えるべきか、そのお金をどうするか、保存しておく倉庫は？などを議論することから始まります。五丁目では１９年度に宝くじ助成制度による自主防災組織育成事業に応募し、幸い助成が決まりましたので、今年は150万円かけて防災器材の調達を実行することにしています。（防災ゼミナール　佐藤英樹）

防災の知恵：いざという時の懐中電灯

大地震の経験者によれば、ひどい揺れが収まった後、真っ暗になり、シーンと静まり返りました。その時、真っ先に感じたことは「明かりがほしい」だったそうです。暗闇は人間に恐怖を呼び起こします。明かりは心を落ち着かせてくれます。
貴方の家に非常用懐中電灯はありますか？　防災用品の中でも特に重要なものです。電器店や家電量販店・ホームセンターなどでも様々な製品を見ることができます。
被災時に役立つよう、ライトにラジオ、時計、サイレン、などの多機能が付いたものもあります。

防災の知恵シリーズは次のテーマを予定しています

①ペットのため防災対策：避難施設に連れて行けないペットはどうすればいいの？
②お年寄りのための防災対策：いざという時に必要な準備は出来ていますか？
③子供たちのための防災対策：子供との連絡方法は出来ていますか？
④病人のための防災対策：準備すべきもの、話し合っておくべきこと、医師と相談をしていますか？
⑤安否確認はどうしますか：家族は大丈夫？ご近所とはどうなっているの？
⑥正確な情報をつむには：デマに惑わされて、間違った行動をとらないために、どうすればよいか？

編集後記：会報はファイルに貯まっていますか。会報は年3回発行（５，９、１月）新しい編集委員は鈴木篤子、稲村みどり、本澤剛、仁科修二です。

片瀬山防災会
発行：片瀬山防災会
〒251-0033 神奈川県藤沢市片瀬山3-22-9
電話0466-25-6739　ﾌｧｯｸｽ25-2222（岩本）